# 18 『更級日記』

五月ついたちごろ、＊つま近きの、いと白く散りたるをながめて、

　①時ならずふる雪かとぞながめまし花たちばなのらざりせば

＊と言ひし山のに、暗がりわたりたりし木のやうに、茂れる所なれば、十月ばかりの、のよりもけにいみじくおもしろく、をひけるやうなるに、より来たる人の、「今、まゐりつる道に、紅葉のいとおもしろき所のありつる」と言ふに、ふと、

　いづこにも劣らじものをわが宿の世を②あきはつるけしきばかりは

＊物語のことを、昼は日ぐらし思ひつづけ、夜も目のさめたるかぎりは、これをのみ心にかけたるに、③夢に見ゆるやう、「このごろ＊の＊の宮の＊に、＊六角堂にをなむつくる」と言ふ人あるを、「そはいかに」と問へば「を念じませ」と言ふと見て、人にも語らず、なにとも思はでやみぬる、いと言ふかひなし。春ごとに、この一品の宮をながめやりつつ、

　咲くと待ち散りぬとなげく春は④ただわが宿がほに花を見るかな

語注

つま＝。

足柄＝足柄山のこと。

物語のこと＝筆者は『物語』などの物語を読むことを願いとしている。

皇太后宮＝の娘のこと。

一品の宮＝三条天皇と、前出の皇太后宮との間に生まれた、のこと。

御料＝おんため。天皇や貴人に関係する事柄をいう尊敬語。

六角堂＝京都市にあるのこと。本堂が六角形なのでこの名がある。

要約

　自分が暮らす京の家居の四季の様子と、ひたすら「物語」の世界に心を遊ばせている我が身の暮らしぶりを描いている。

問1　波線部「花」とあるが、何の花のことか。最も適当なものを次から選べ。（6点）

ア　菜の花　　イ　桃　　ウ　　　エ　桜

〔　　　〕

問2　二重傍線部「おもしろく」の、品詞・活用の種類・活用形を答えよ。（3点×3）

|  |  |
| --- | --- |
|  | 品詞 |
| 活用 | 活用の種類 |
| 形 | 活用形 |

問3　傍線部①とあるが、何のどのような様子を見てこのようにんでいるのか。解答欄に合うようにして答えよ。（10点）

〔　　　　　　　　　　　　　　　〕いる様子

問4　傍線部②「あき」には、二つの意味が掛けてある。何と何が掛けられているのか。その意味がわかるように、例にならって、二通りの漢字で記せ。（3点×2）

|  |  |
| --- | --- |
| あき | （例）まつ |
|  | 松 |
|  | 待つ |

問5　傍線部③とあるが、夢に見た内容が書かれているのはどこまでか。最後の五字（句読点や「　」を含まない）を答えよ。（5点）

〔　　　　　　　　〕

問6　傍線部④とあるが、どういうことか。解答欄に合うようにして答えよ。（14点）

筆者が、

〔　　　　　　　　　　　　　〕をまるで〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕いるということ

練習問題　〈古文常識〉

一　月の異名をそれぞれ後から選べ。

①　一月　（　　）

②　二月　（　　）

③　三月　（　　）

④　四月　（　　）

⑤　五月　（　　）

⑥　六月　（　　）

⑦　七月　（　　）

⑧　八月　（　　）

⑨　九月　（　　）

⑩　十月　（　　）

⑪　十一月（　　）

⑫　十二月（　　）

ア

イ

ウ

エ

オ

カ

キ

ク

ケ

コ

サ

シ

二　十二支（→〔・・・・・・・・・・〕）について、「子」から順番に並び換えよ。

子→（　　）→（　　）→（　　）→（　　）→（　　）→（　　）→（　　）→（　　）→（　　）→（　　）→（　　 ）

【解答】

問1　エ

問2

|  |  |
| --- | --- |
| 形容詞 | 品詞 |
| ク（活用） | 活用の種類 |
| 連用（形） | 活用形 |

問3　橘の白い花が散って（いる様子）

問4

|  |  |
| --- | --- |
| あき | （例）まつ |
| 秋 | 松 |
| 飽き | 待つ |

問5　ませと言ふ

問6　（筆者が、）一品の宮の邸宅の花（をまるで）自分の家の花のように見て（いるということ）

【練習問題解答】

一　①コ　　②シ　　③イ　　④カ　　⑤オ　　⑥ア

⑦サ　　⑧ウ　　⑨ケ　　⑩エ　　⑪キ　　⑫ク

二　（子→）丑→寅→卯→辰→巳→午→未→申→酉→戌→亥